

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
1 基礎学力の充実を図り、主体的に取り組む学習態度を育てる。 2 一人一人の良さを生かしながら自主的・創造的な活動の推進を図る 3 人権尊重の精神を養い、互いに励まし合い向上しようとする態度を育てる 4 たくまいし心身の育成と体力の向上に努める	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 D 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 D 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるよう家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 D 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 ○3年生 ・国語は、基礎問題は全国平均を4ポイント以上超える。話題に沿った質問をしたり、発表用の文章の構成を考えたりすることなどの、活用型の問題が弱い。 ・算数は、基礎問題、活用問題ともに全国平均を上回る。特に、「図形」領域の正答率が高い。「量と測定」の領域の「時刻と時間」「長さ・かさ」の正答率が低い。 ○4年生 ・国語、算数ともに県平均を下回っている。国語は、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域が特に低い。 ・算数は、「量と測定」の領域が特に低い。特に「時刻と時間」の正答率が低い。「図形」領域はやや上回っている。 ○5年生 ・国語、算数ともに県平均を大きく上回っており、良好な状況である。 ○6年生 ・国語はA・Bともに県平均を下回っている。「言語についての知識・理解・技能」については、県平均を上回る。 ・算数はA・Bともに県平均と比べると正答率が高い。ただし、「図形」領域については、県平均を下回る。 ・一つの点の周りに集まった角の大きさの和が、360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く：本校21% (全国48%) 円周率を求める式として正しいものを選ぶ：本校27% (全国42%)	【学習状況調査の結果】 ○携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間「1時間以上、2時間より少ない」と答えた割合は38%で、県平均の10%より高い。 ○家庭学習の時間については、「1時間以上、2時間より少ない」と答えた割合が71%で県平均の44%を大きく上回る一方、「2時間以上」と答える割合は7%と低い(県平均は29%)。 ○1日当たりの読書時間については、「1時間以上」の児童が26%と、県平均の19%を大きく上回る。 ○「近所の人に会ったときは、あいさつをしていた」については、「当てはまる」と答えた児童の割合は88%で、県平均の66%を大きく上回る。 ○「学校のきまりを守っていますか」については、全員の児童が「当てはまる」と答えている。 ○自尊感情が県平均と比べるとやや低い。 ○将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合が、県平均と比べると13ポイント低い。

成果	課題
○4年生の国語、算数ともに昨年度の標準スコアを上回っている。算数は4ポイント向上している。 ○4年生の算数「数と計算」の領域では、昨年度より約3ポイント(標準スコアで)向上している。「量と測定」「図形」の領域ではそれぞれ約4ポイント向上している。 ○5年生の国語、算数ともに昨年度の標準スコアを約2ポイント上回っている。 ○5年生の国語「読むこと」の領域では、昨年度より約3ポイント(標準スコアで)向上している。 ○5年生の算数「数と計算」の領域では、昨年度より約4ポイント(標準スコアで)向上している。「図形」領域では約3ポイント向上している。 ○「数と計算」「量と測定」「図形」の領域の向上は、問題データベースの活用、少人数指導の充実、美作大学と連携しての放課後学習、デジタル教科書等によるICT活用が、学習内容の定着に関係していると思われる。	○自尊感情の低下を防ぐためには、児童の学習上の困難さを把握し、個に応じた対応が求められる。 ○総合的な学習の時間等で、将来の夢や目標を考える取組が求められる。 ○活用型の問題が弱い傾向。言語活動を通して、学んだことを活用できるところまで指導することが求められる。 ○「書くこと」の領域のポイントが低い学年があるので、教科書の「書くこと」の単元をより丁寧に指導することが求められる。また、1単位時間のなかで、自分の考えを書く、振り返り等を書く等の「書く活動」をしっかり取り入れることが求められる。 ○「話すこと・聞くこと」の領域のポイントが低い学年があるので、「話す・聞く」の単元でのデジタル教科書(動画)の活用をして、モデルを示し、実際の話し合い活動につなげていくことが求められる。また、1単位時間のなかで、学びを広げたり、深めたりする「問い返し」を意識的に行っていくことが求められる。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
(学習環境を整える) ○学習環境を整える	年度末	・授業で、できた、分かったと感じる児童の割合 80%	・学習用具のきまりや学習規律を徹底 ・ICT機器を活用した、分かる授業づくり ・少人数指導・放課後補充学習の実施					
(活力ある学び) ○岡山型学習スタンダードに基づいた活力ある学び	年度末	・学期末のまとめテストでの平均正答率 85%	・アセスメントシート分析パッケージを活用し、児童の学習上の困難さを把握 ・岡山型学習指導スタンダードに基づく問い返しや、振り返りのある授業づくり ・朝学習でのアシスト問題・真書WEBの活用					
(家庭地域と共に育てる) ○家庭学習の定着と充実	年度末	・1日あたりの学習時間が目標値を上回った児童の割合 90%	・家庭学習カレンダーを活用する ・にこにこ成名っ子カードを活用する					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○笑顔であいさつに取り組む ○掃除を時間いっぱい行い、落ち着いた学校づくりをめざす ○各校で家庭学習時間を増やすための取組を行う	○「家庭学習カレンダー」の活用についての家庭用チラシの作成配布や個人懇談、教育相談等を活用して家庭学習の充実を図る取組への理解と協力を得る。 ○「にこにこ成名っ子カード」による生活習慣の改善を図る取組への理解と協力を得る。